

超☆

チーム名:
べんぴがーるず

腸活

ビフィズス菌




乳酸菌

投資

応募区分:中学
学校名:洗足学園中学校
学年:3年
指導教員:香川真人
チームID:SL2002679
メンバー:
○田中諒子、鈴木愛乃
工藤千幸、仲佳清

基礎学習

- 1 私たちの生活に必要な財やサービスを（ [1] 生産 ）し、（ [2] 流通 ）させ、（ [3] 消費 ）することを経済という。財やサービスには、代金を払った人だけが消費を独占できる（ [4] 私的財 ）と、政府が税金等を使って提供する（ [5] 公共財 ）とがある。
- 2 経済活動を行う主な主体には、消費の主体である（ [6] 家計 ）、生産・流通の主体である（ [7] 企業 ）、行政サービスや公共財の提供などを通して一国の経済活動を調整する（ [8] 政府 ）がある。
- 3 成年年齢の引き下げに関する次の説明文のうち、誤っているものは？（ [9] b ）
 - a. 成年年齢の18歳への引き下げに先立って、選挙権年齢の引き下げが行われた。
 - b. 成年年齢の引き下げに伴い、飲酒や喫煙、競馬などの公営競技に関する年齢制限も引き下げられた。
 - c. 親の同意なしで、携帯電話の契約を結んだり、高額商品を買うためのローンを組んだりできるようになる。
 - d. 成年年齢引き下げ後は、いったん結んだ契約を取り消すことができる「未成年取消権」の行使はできなくなる。
- 4 日本の人口の年齢構成の推移を見ると、総人口に占める65歳以上人口の割合を示す（ [10] 高齢化率 ）は上昇傾向にあり、2000年の17.4%から2018年には（ [11] 28.1 ）%まで増加している。
- 5 日本では、「働き方改革関連法」が成立し、2020年4月から、同じ企業・団体で働く正規雇用労働者と非正規雇用労働者（有期雇用労働者、派遣労働者等）の間で不合理な待遇差を設けることを禁止する（ [12] 同一労働同一賃金 ）の導入が進められている。
- 6 「仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムによって経済発展と社会的課題の解決を両立する社会」として注目されている未来社会（ [13] Society 5.0 ）を実現するための主な中核技術に、「IoT(internet of Things)」と（ [14] AI ）がある。
- 7 グローバル化の進展に関する次の説明文のうち、正しいものは？（ [15] d ）
 - a. 貿易が自由化され、安い輸入品が国内に入ってくることは、消費者にとっても国内の生産者にとってもメリットになる。
 - b. グローバル化の進展による影響は、経済以外の分野ではあまり見られない。
 - c. 「環太平洋経済連携協定（TPP）」は、アメリカの離脱により各国の署名が遅れている。
 - d. 近年の日本の国際収支をみると「投資収益」が大幅な黒字を計上している。
- 8 「持続可能な開発目標（SDGs）」の17の目標のうち、今回、グループで設定した投資テーマと特に関連が深い目標を挙げ（3つ以内）、その主な理由を記述してください。

関連の深いSDGsの目標	その主な理由
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>腸活はあらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活の確保につながると言えるから。また、健康な人が増えれば、介護などの福祉の問題の解決にもつながるから。</p>

- 9 「ESG投資」で重視する3つの要素の組み合わせとして、正しいものはどれか？（ [16] b ）
 - a. 環境 — 科学 — 成長
 - b. 環境 — 社会 — 企業統治
 - c. 効率 — 公正 — 企業統治

- 10 GDP（国内総生産）に関する次の説明文のうち、誤っているものは？（ [17] a ）
- a. GDPとは、一定期間に国民全体として生産したモノやサービスの付加価値の合計額をさす。
 - b. GDPとは、一定期間に国内で生産したモノやサービスの付加価値の合計額をさす。
 - c. 実質GDPとは、名目GDPから物価の変動による影響を差し引いたものである。
 - d. 2019年(暦年)の日本のGDPの額は、名目GDPが実質GDPを上回っている。
- 11 株式投資のリスクを少なくする方法には、（ [18] 投資先 ）を分散させることや、投資する（ [19] 時間 ）を分散することなどがある。
- 12 「投資信託(ファンド)」に関する次の説明文のうち、誤っているものは？（ [20] c ）
- a. 投資信託は、分散投資の考え方から生まれた金融商品の一つである。
 - b. 投資信託では、多くの投資家から集めた資金をまとめて運用している。
 - c. 投資信託では、それぞれの投資家からの要望を受けて投資先の選定を行っている。
 - d. 投資信託は、元本が保証されている金融商品ではない。
- 13 次のうち、現在の企業価値（株価）が割高か割安かを判断するための指標は？（ [21] d ）
- a. ROE b. 自己資本比率 c. 純利益 d. PER
- 14 「日経アジア300」は、アジアの11の国・地域を対象に、（ [22] 時価総額 ）、（ [23] 成長性 ）などを基準に選定した約300社の有力企業で構成されている。

要 旨

「腸活」という言葉を知っているだろうか。腸活とは簡単に言うと、腸内環境を整えることだ。腸は"第二の脳"とも言われ、私達の体の中でも特に重要な器官であることがわかってきている。健康寿命が注目される今、腸の健康を維持することは健康の維持と増進に欠かせない。腸活はこれからの日本社会の健康問題や高齢化に伴う様々な問題を解決してくれる力があるのだ。題名の「超☆腸活投資」とは、腸活関連商品を販売していたり、世の中に腸活を広めようとしていたりしている企業を応援する新しい投資のスタイルである。さらに腸活投資は日本の未来をより良くしてくれる力を持っているだけでなく、今後ますます発展していく分野であると自信を持って言える。今回そのような日本の上場企業でポートフォリオを組み、レポートにまとめた。

目 次

	ページ番号
基礎学習	2
要 旨	3
目 次	3
投資テーマ決定までの過程	4
暮らしや社会の変化と経済との関係	4
投資テーマの決定	5
テーマ選定理由	5

テーマ研究	6
腸活アンケート	8
私達が腸活に期待するワケ	9
ポートフォリオの構築	10
スクリーニングの流れ	10
第一スクリーニング ～テーマとの関連性～	11
第二スクリーニング ～テーマとの適合性～	12
第三スクリーニング ～企業の経営能力～	14
第四スクリーニング ～企業の取り組み～	16
ポートフォリオの分析	17
決まった企業19社それぞれの紹介	18
値動きのチェック	23
全体の評価額の考察	23
株価が上昇した企業（太字は損益率5%以上）	24
株価が下落した企業（太字は損益率-5%以下）	24
企業ヒアリング	25
森永乳業（食品）	25
帝人（素材化学）機能性食品素材事業推進班/三好孝則様	26
森下仁丹（医薬品）広報担当/竹中はる花様	27
投資家へのアピール	28
日経STOCKリーグを通して学んだこと	29
参考文献	30

投資テーマ決定までの過程

暮らしや社会の変化と経済との関係

投資テーマを考えるにあたって、まず現在の社会における課題を見つけ出し考えてみた。

表①

課題	その課題を選んだ理由	自分たち(女子中学生)との関わり	経済や企業活動への影響	解決を目指している分野・今成長が見込まれる分野
新型コロナウイルス感染拡大	人々のライフスタイルが大きく変化し、消費活動や経済活動に大きな影響を及ぼしているから。	学校に行かずに、オンラインで授業が行われた。 家でできる趣味を探すようになった。 検温、マスクの着用、手洗い・消毒が	リモートワーク・テレワークが普及。 家で手軽に楽しめる 娯楽の需要が高まった。 健康志向が高まり、 食事、栄養に気を配	PC・インターネット・ 音楽・映像・アプリ・ 電子書籍・ゲーム・サ ブスクリプションモデ ル・ネット通販 ・健康食品・サプリメント・マスク産業・消

		習慣になった。	る人が増え、消費が増えた。	毒液・自動手指消毒器 ・サーモグラフィーの監視カメラ
健康問題	高齢化が進み、人生100年時代と言われているが、生活習慣病が日本人の死因の上位を占めているから。	高齢者と接する機会が増えたり、健康について授業で習ったりすることで、健康志向が高まる。	早いうちからの生活習慣病の予防への関心が高まり、健康食品の需要が高まった。	健康食品・サプリメント・健康器具
猛暑とマスクによる熱中症	猛暑により熱中症の危険が高まり、今年はマスクもあるので危険が高いから。	マスクをして外に出る。エアコンをつける。	熱中症の対策グッズやエアコン・扇風機などが売れる。それらの改良が進む。	熱中症対策グッズ産業・エアコン・扇風機・ひんやりマスク・清涼飲料水
プラスチックゴミの増加	海洋に漂うプラスチックゴミやマイクロプラスチックは生物に大きな悪影響をもたらしているから。	レジ袋の有料化やSDGsの授業など、環境を考える機会が増えた。	プラスチックゴミをなくそうという動きが高まる。	廃プラに尽力している企業・プラスチックの改良に力を入れている企業・有料化に協力的な企業
ジェンダー格差の問題	日本のジェンダーギャップは先進国でも最下位で、格差を解消することが重要な課題となっている。	私たちが女性なので、社会に出る前にこの問題に向き合っていくべきである。	女性参画社会が目指される。誰にでも働きやすい社会・企業の実現への移行が急務になる。	誰にでも働きやすいという理念を持つ企業・ジェンダー問題について意識の高い企業

投資テーマの決定



テーマ選定理由

社会の解決したい課題や実現してほしい未来を各自で考え発表し合った結果、「健康問題」を解決したいという点で全メンバーの考えが共通していた。その中でも「腸活」という言葉に惹かれ、調べて見たところ腸内細菌などに関する研究の目覚ましい発展や将来性、重要性に気がつき全員が興味を持てたので「腸活」をテーマに設定した。各自で意見を出し合う中で大事にしたのが「身近であること」である。身近な問題のほうがイメージしやすいからだ。「腸活」に興味を持ったのは、発案者のメンバーが便秘に悩んでいたためである。賛同したメンバーにも便秘に悩む人がいたり、毎日乳製品を健康のため食べている人がいたり、このチーム内での身近さが強く、「腸活」に惹かれたことからテーマに設定した。

身近な問題の解決

健康問題の解決

よりよい社会の実現

私達は特に食品を摂取することによって行う腸活を重視し、企業を選定するときの基準とした。後述するが私たちが学校で実施したアンケートの結果によると、バランスの良い食事を心がけることを腸活のために実践したいまたは必要であると考えている人が非常に多かった。一般的に見ても腸活といえば食事を見直すことから始めると考えている人が多いと言える。このことを受けて食生活、つまり摂取する腸活の方面から切り込んで投資した方がより確実に素早く人々に腸活を広めることができると考えたのである。

テーマ研究

私達自身があまり腸活について知らなかったので腸活および腸の健康がどのような影響をもたらすのかについて、本を読むなどしてまとめた。また、学校でアンケートを実施し、考察した。

全体

腸とは

腸は発生学的にもっとも原始的な器官であり、生物の進化の歴史からみても、腸はあらゆる器官の源となる大切な器官である。腸には神経細胞が約1億個あるため、脳の指令なしで独自に働けることから「第二の脳」と呼ばれている。

腸の機能には、単に消化吸収にとどまらず、体にとって不要な老廃物や有害な物質を排泄する作用、外部から侵入する病原体から身を守る免疫機能などがあり、腸はさまざまな役割を担っている。そして、腸が乱れてしまうと、体全体の健康に様々な悪影響が出てしまう。それを防ぐために何より大切なのは、生活習慣の改善である。

腸内細菌とは

私たちの腸内には、数にして数百兆～1000兆個以上、総重量にして約1～1.5kgもの、多種多様な細菌が棲み着いている。腸内細菌の種類は、現在わかっているだけでも1000種類以上あり、そのうち、人体にとって有益な働きをするものは「善玉菌」、有害な働きをするものは「悪玉菌」、有益とも有害ともどちらとも言えないものは「日和見菌」と呼ばれている。これらの細菌は、腸の中であたかも「陣取り合戦」のように拮抗しながら生存しており、この大腸を中心とする腸内細菌叢（=腸内フローラ）はヒトの年齢ごと、さらに個人ごとに構成が異なる。

シンバイオティクスとは

シンバイオティクスとはプロバイオティクスとプレバイオティクスの2つを組み合わせることであり、腸の働きを最大限に高めることができる。プロバイオティクスとは腸内環境に有益な作用をもたらす善玉菌とそれを含む食べ物のことである。例えば、乳酸菌やヨーグルトなどがこれにあたる。プレバイオティクスとは、腸内の善玉菌の増殖を助ける、エサとなる物質を含む食べ物のことである。例えば、食物繊維やオリゴ糖などがこれにあたる。

生活習慣病

腸の健康はがん、心疾患、糖尿病、大腸がん、高血圧、肥満、慢性腎臓病などの様々な生活習慣病に関係している。食事を見直すことで腸内環境を改善できる。

野菜に多く含まれる食物繊維はプレバイオティクスのひとつである。野菜の摂取量が減ると食物繊維の摂取量も減り、腸内細菌のエサが不十分になり、腸内細菌も減少する。その結果、腸の免疫力が下がり、ガンなどの生活習慣病にかかりやすくなる。

近年、食の欧米化などの食生活の変化が原因で、日本人の野菜の摂取量が減少している。特に若年層で野菜の摂取不足が顕著で、20歳代～40歳代の野菜摂取量は目標摂取量の7割ほどと、明らかに不足している。

①大腸がん

先述の野菜摂取量の不足は、大腸がんを引き起こす。大腸がんは大腸に発生するがんで、腹痛や便秘といった症状がある。大腸がんの予防には食物繊維を含む食品を摂取することが効果的である。野菜摂取量不足によって日本では大腸がんが増加し、がん対策として野菜摂取量を増やしたアメリカでは、患者の数が減少したという報告もある。

②肥満

太りやすい体質、太りにくい体質を決める要素の一つに、腸内細菌の性質の違いがあり、先述した

腸内細菌の一種である日和見菌が太りやすさを左右している。日和見菌には、エネルギーの吸収を増やす「太らせ菌」と脂肪の取り込みを抑制する「痩せ菌」があり、この量の違いによって痩せ体質、太り体質が決まる。

考察

このことから、腸活が広まり、食物繊維を摂取する人が増えれば、大腸がんを筆頭に様々な生活習慣病にかかる人を減らすことができる。また、腸内細菌には「痩せ菌」と「太らせ菌」が存在し、食生活でコントロールすることで、肥満を防げる。腸活を行うことによって、腸内環境を変え、肥満が解決すれば、肥満が原因の虚血性心疾患などにかかる人も減らすことができる。

免疫力

腸活は免疫力にも関係している。

腸は食物とともに病原菌やウイルスが入ってきやすいため、免疫に関する細胞や抗体のうち、全身の50%以上が腸管の中に集中している。また、免疫細胞の70%が腸内細菌によって作られている。腸内細菌が免疫細胞を刺激し、活性化する物質を出している。さらに、体のいろいろなところに免疫細胞を送り出していることから、腸内細菌は感染症やがんなどの生活習慣病から体を守る命に直結した役割を果たしている。

①アレルギー性疾患（花粉症など）

本来外部からの侵入物を排除するために存在する「免疫反応」が特定の物質（抗原・アレルゲン）に対して過剰に起こることをアレルギーと言い、アレルギーが原因となって起こる病気をアレルギー性疾患という。アレルギー性疾患の予防の一つに腸内環境を整えることがある。

②感染症

感染症とは、病原体が体に侵入して、症状が出る病気のこと。自然免疫が活性化していれば感染しにくく、万が一感染しても回復が早く済む。1995年にインドネシア・バリ島から帰国した日本人から日本国内でコレラが蔓延した例は、日本人の免疫力が低下していることを示している。

考察

このことから、腸活が広まり、腸内環境を整える人が増えれば、免疫機能が正常に働き、アレルギー性疾患にかかる人を減らすことができる。また、普段の生活で腸活を行い、免疫を高めることで、現在、感染が拡大している新型コロナウイルスの感染予防にも繋がる可能性がある。

脳

腸と脳には密接な関係があり、「脳腸相関」という言葉もある。生物の進化を見てみると、最初に神経系が誕生したのは脳ではなく腸である。つまり、腸が脳の"原型"であり、人間のルーツも腸なのである。

「幸せホルモン」と呼ばれるドーパミンやセロトニンという脳内伝達物質の前駆体は、腸内で合成され、さらにそれは腸内細菌が少ないと増えない。腸内細菌がいないと脳まで送ることができない。現在日本ではうつ病の患者さんが増え続けているが、腸内環境を整えることにより改善することができる。

ここでいくつか「脳腸相関」の例を紹介する。

1. 人間が近づくと逃げようとして大騒ぎになっていた豚に乳酸菌入りのエサを食べさせると、とても穏やかになった。これは、乳酸菌が腸内環境を整え、腸内細菌が幸せホルモンを脳までスムーズに送り届けたためだと考えられる。
2. 宇宙飛行士は、長時間狭い空間に閉じ込められることになるため、相当な精神的ストレスがかかる。宇宙船と同じ状態で訓練中の宇宙飛行士の便には、バクテロイデス（日和見菌）の増加が認められた。
3. 阪神淡路大震災前後の人の腸内細菌叢の変化を見ると、震災後の便にはカンジダ、シュドモナスが増加していた。これらの細菌は、それ自体は病原性が低いですが、免疫力や抵抗力が低下していると感染症を引き起こす原因となる。

考察

このことから、腸の健康は精神面にも多大な影響を及ぼすことがわかっており、腸内環境の変動は

心理的・身体的ストレスと相互に関与しているといえる。腸活を行うことで精神的な疾患の予防や、ストレスへの耐性をつけることに繋がる。

腸活アンケート

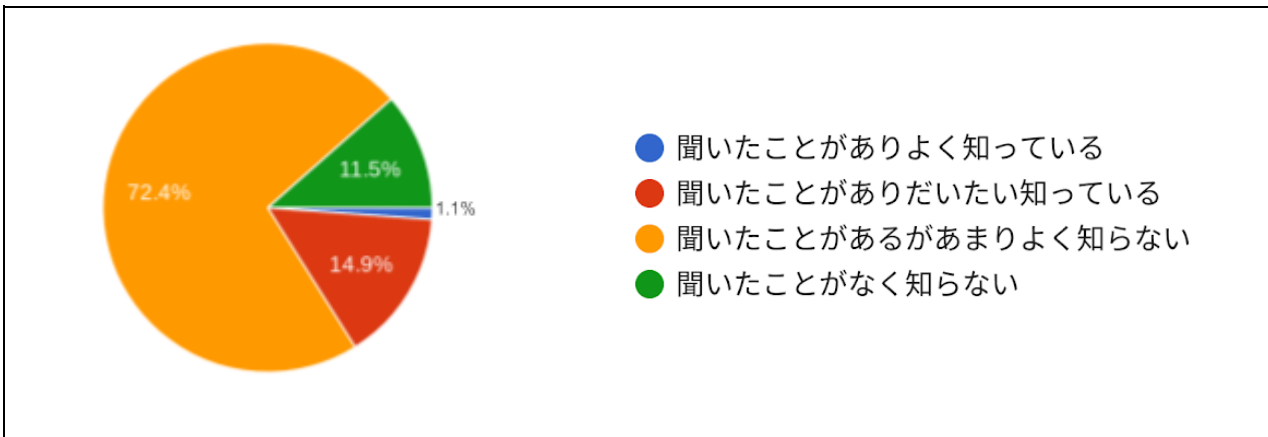
テーマ研究によって、「腸活」が様々な健康及び健康問題に関係していることがわかった。このことから、腸活は特定の年代の人の健康に限ったものではなく、より若いうちから意識していくことがその後の健康にいい影響をもたらすと言う結論に至った。そこで、今の女子中学生は腸活や腸の健康についてどのくらい意識しているのか調査した。

アンケート実施方法

洗足学園中学校の中学3年生を対象に、「腸活意識調査」と題したアンケートを行い、87名の回答が得られた。

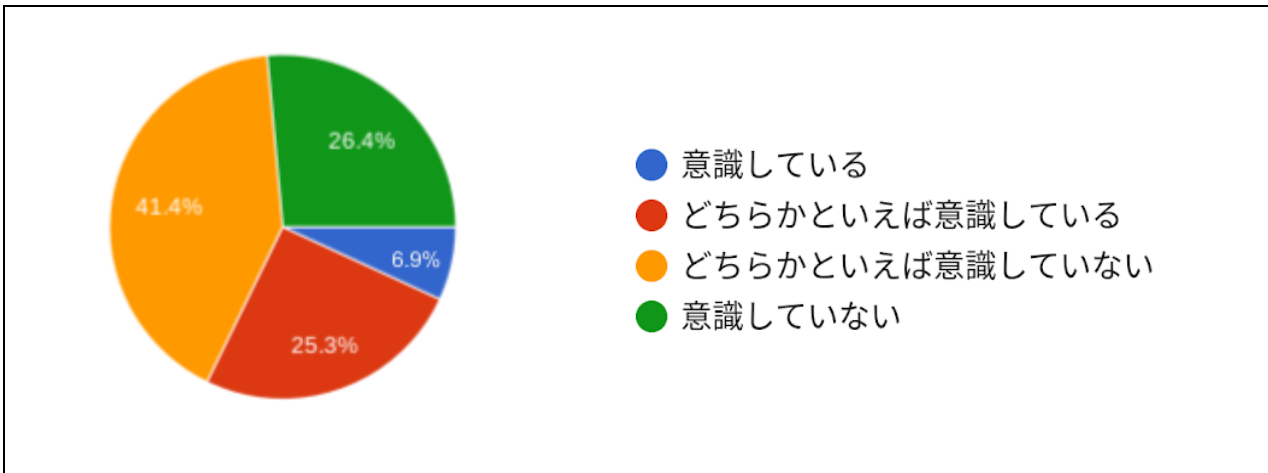
アンケート結果

Q1. 腸活についてどの程度知っていますか。



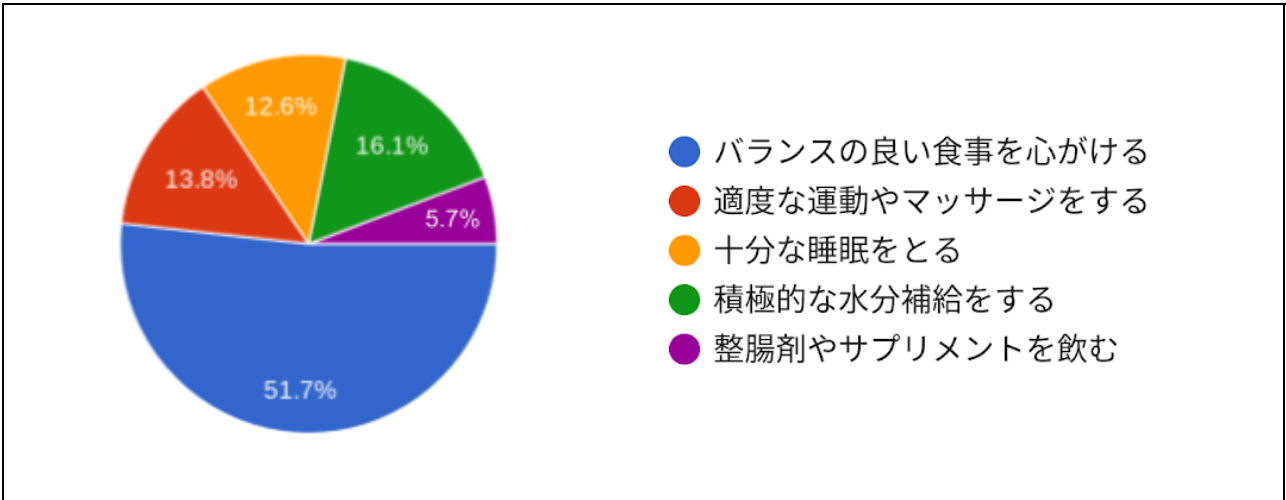
腸活について知っていると回答した人は16%にとどまり、知らないまたは聞いたことがないと回答した人は84%に上った。このことから、ほとんどの人が腸活をよく知らないということがわかった。

Q2. 普段の生活で腸活や腸の健康について意識していますか。



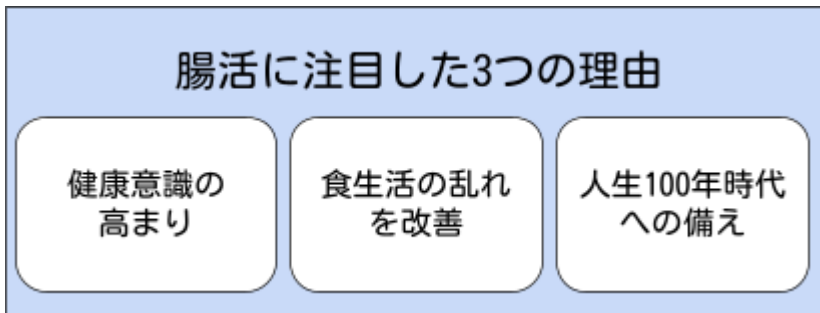
意識していると回答した人は32%、意識していないと回答した人は68%となった。Q1で腸活を知っていると回答した人が少なかった割には、腸について意識していると回答した人が多かった。

Q3. 腸内環境を良くするために一番必要だと思うもの、もしくは実践したいものはなんですか。



食事や水分補給を気をつけることが、腸の健康に一番必要であると考えている人が最も多く、基本的な生活習慣の一つである運動、睡眠が一番大事だという人も一定数いたが、整腸剤やサプリが一番大事だと考える人は少なかった。このことから腸活を意識する人は食事を心がけるようになるため、食品を扱う企業の需要が伸びると考えられる。

私達が腸活に期待するワケ



1. 健康意識の高まり (with 新型コロナウイルス)

今、激しい流行で世界中を騒がせている新型コロナウイルス。日本でも「コロナ禍」と称されるほど多方面で影響を及ぼしている。死者も沢山出し、医療現場も逼迫し、世間はあらゆる面で自粛を呼びかけ、みな感染しないように必死になっている。このような中で注目されているのが「健康」である。実際に明治安田生命相互会社が実施したアンケートによると約半数がコロナ禍を期に「健康への意識が高まった」と回答したという結果が出ている。

健康が注目されることにより同様に注目されてくるのが「腸活」である。先述したように腸内環境の状態は様々な健康問題に繋がる。つまりは腸内環境を整えることが健康な体につながり、免疫力も高めてくれるのだ。免疫力が高まれば自然と感染リスクや症状の度合いも良くなる。また感染面以外でも外出自粛や巣ごもり生活によって「コロナ太り」に悩む人が多く、ダイエットにも繋がる腸活が注目されている。先程のアンケートでも「健康への意識が高まった」と回答した人の内、約半数が「食事・栄養に気を配るようになった」と回答していた。また、私達が腸活分野に携わる企業に対して行った企業質問の中でも「腸活はコロナウイルス自体に影響する研究結果は出ていないが免疫力の向上に繋がると考えられている。実際に新型コロナウイルスの影響で発酵食品（ヨーグルト、サプリメント）の売上は向上している」といった回答を得られた。

このように新型コロナウイルスの流行によっても健康意識は高まっており、それに際して腸活への注目度も上昇しているのだ。

2. 食生活の乱れの改善

厚生労働省によると、現在、生活習慣病は日本人の死因の約6割に達している。生活習慣病は日本人にとって無視できない病気だ。さらに、大人だけでなく子供の生活習慣も悪化傾向にある。野菜・果

物を食べない、外食が多い、スイーツを食べる機会が多いなど食生活の乱れが主な原因の一つとなり生活習慣病は発症する。このため、生活習慣病対策には、まずは食生活の改善が大切である。また、テーマ研究にもあるように、腸活は生活習慣病に関係がある。例えば、腸活を行い食物繊維を摂取することにより、短鎖脂肪酸という満腹感を得やすくなる物質が腸内細菌によってつくり変えられることができる。腸活を行うことで効率的に生活習慣病を予防することができるのだ。

このように、食生活の改善が求められている今、腸活の必要性が高まっている。

3. 人生100年時代への備え

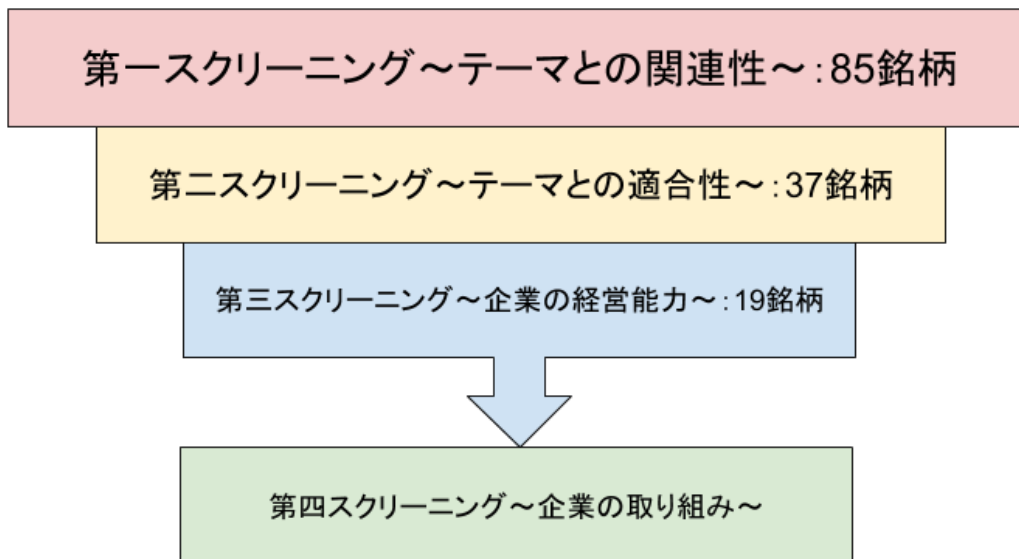
現在の平均寿命は女性で86歳。将来は「100歳まで生きる」が現実のものとなっている。ある海外の研究では、2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されているようだ。この長寿社会の時代は「人生100年時代」と呼ばれている。人生100年時代については特に教育や仕事の面で様々な議論がなされているが、それ以前にそれらをなし得るには健康寿命を長くすることが必要不可欠である。健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を指し、平均寿命から寝たきりや認知症など介護が必要な期間を差し引いたものである。2000年にWHOが提唱して以来、「寿命を伸ばす」ということだけでなく、「健康でいられる期間を伸ばす」ということが重要視されるようになった。日本では健康寿命と平均寿命の差が男性で約9年、女性では約12年もの開きがある。つまり、寝たきりなどで介護を必要としている期間が平均して約10年もあるということになる。日本は世界一の長寿国と言われているが、寝たきりの期間は諸外国に比べると圧倒的に長いというのが現状である。寝たきりになってしまうと必要になるのが、介護と費用である。少子高齢化が急速に進む今現在、介護を受けたくても受けられない"介護難民"の人が増えている。また、介護が必要になったり、病院にかかる回数が増えたりするとその分の費用がかさむなど経済的な問題もある。

さて、私たちが高齢者になったときのことを考えてみる。もし、介護が必要になっても介護してくれる人がいないかもしれない。また、増大する社会保障費の影響で十分な年金が得られないかもしれない。このような問題を未然に回避するためには「健康寿命を延ばす」必要があり、そのために「腸活」を早い段階から行う必要があると私達は考えている。テーマ研究より、腸活は生活習慣病の予防、免疫力さらには認知症の予防にも繋がることがわかった。「腸活」は間違いなく健康寿命を伸ばしてくれるだろう。「腸活」が世間にさらに広まり、また腸活事業に力を入れる企業や腸活事業を展開する企業が増えれば日本の健康寿命延伸に貢献すると考える。

ポートフォリオの構築

スクリーニングの流れ

私達はポートフォリオを作成するにあたって以下の手順でスクリーニングを行った。



第一スクリーニング ～テーマとの関連性～

第一スクリーニングでは、以下の6つの基準の一つでも当てはまっている上場企業をインターネット上での検索や、腸活に関するニュースの関連企業などから選定した。その結果85社が選ばれた。（表②）

- 腸活についてホームページに記載している
- プロバイオティクスについて研究開発または発売を行っている
- プレバイオティクスについて研究開発または発売を行っている
- 整腸剤などの腸の健康のための薬を研究開発または発売を行っている
- ストレスのケアについて研究している
- 健康運動器具の開発または発売を行っている

表② 第一スクリーニングの結果

証券番号	企業名	証券番号	企業名	証券番号	企業名	証券番号	企業名	証券番号	企業名
4581	大正製薬ホールディングス	4556	カインス	2206	江崎グリコ	2114	フジ日本精糖	2927	AFC-HDアムスライフサイエンス
4517	ビオフェルミン製薬	4558	中京医薬品	2220	亀田製菓	2216	カンロ	2930	北の達人コーポレーション
4578	大塚ホールディングス	2269	明治ホールディングス	2264	森永乳業	2588	プレミアムウォーターホールディングス	1332	日本水産
4512	わかもと製菓	2004	昭和産業	2201	森永製菓	2551	マルサンアイ	4526	理研ビタミン
4568	第一三共	2267	ヤクルト本社	2897	日清食品ホールディングス	2226	湖池屋	4967	小林製菓
4574	大幸薬品	2593	伊藤園	2602	日清オイリオグループ	2224	コモ	4921	ファンケル
4524	森下仁丹	2811	カゴメ	2002	日清製粉グループ本社	2221	岩塚製菓	3401	帝人
4502	武田薬品工業	2503	キリンホールディングス	2502	アサヒグループホールディングス	1380	秋川牧園	4974	タカラバイオ
4530	久光製薬	2931	ユーグレナ	2908	フジッコ	2001	日本製粉	3382	セブン&アイ・ホールディングス
4507	塩野義製薬	2810	ハウス食品グループ本社	2501	サッポロホールディングス	2108	日本甜菜製糖	2651	ローソン
4521	科研製薬	2270	雪印メグミルク	1379	ホクト	2112	塩水港精糖	3139	ラクト・ジャパン
4523	エーザイ	2802	味の素	2809	キューピー	2117	日新製糖	2692	伊藤忠食品
4527	ロート製薬	2801	キッコーマン	2607	不二製油グループ本社	2109	三井製糖	3386	コスモ・バイオ
4540	ツムラ	2899	永谷園ホールディングス	2612	かどや製油	2208	ブルボン	6752	パナソニック
4555	沢井製薬	2266	六甲バター	2613	J-オイルミルズ	2209	井村屋グループ	7701	島津製作所
4559	ゼリア新薬工業	2812	焼津水産化学工業	2587	サントリー食品インターナショナル	2892	日本食品化工	8769	アドバンテッジリスクマネジメント
4577	タイト	2229	カルビー	2911	旭松食品	2925	ビックルスコーポレーション	7965	ビジョン

第二スクリーニング ～テーマとの適合性～

第二スクリーニングでは、第一スクリーニングで絞った85社から腸活事業により力を入れている企業を選定した。今後腸活を重視してくれる企業を選定することで投資が私達の目的に沿うようにするために実施した。それにあたり各企業の腸活に対する関心を測る指標を独自に作成し、点数をつけていった。(表③) その結果37社が選ばれた。(表④)

表③ 第二スクリーニングの指標

区分	基準	配点 (点)	採用理由
ホームページ	専用のページがある	4	一般に公開されているホームページ上に腸活について明記されているということは、関心が高いことに繋がると考えられるため。
	一部に記載されている	2	
	なし	0	
ブランド数	7個以上	5	商品を作る一定の興味があり、社会に腸活を広めようとしていると考えられるため。
	5～6個	4	
	3～4個	3	
	1～2個	2	
	0個	0	
研究	開発研究の主産物である商品がある	4	研究で得た結果を商品に活用して腸活関連の商品ができる可能性が高いから。
	開発研究の副産物である商品がある	1	
	記載なし	0	
メディア宣伝	CMで商品の宣伝のみならず「腸」への効果について言及している	4	売上につながるマーケティングでアピールするということはその企業が力を入れていることに繋がるから。
	腸活に関する商品の宣伝のみで、効果については言及していない	2	
	なし	0	
その他の活動	腸活に関係する活動を実施	3×種類数	腸活についての対外的な活動をすることは腸活への関心の高さに繋がるため。
	なし	0	

指標の説明

<ホームページ>

企業のホームページ等にアクセスし、腸活に関する内容がどれだけ掲載されているかを見た。専用のページとは、上から下までが腸活について説明された特設サイトまたはホームページ内のページのことを指す。一部に記載とは、ページの一部にのみ記載されているものを指し、関連商品の商品説明のページに記載されているものも含めた。

<ブランド数>

ブランド数とは、「腸(腸内環境、腸内フローラ、腸内細菌)」に特に効果が良いと紹介している商品のブランドの数のことを指す。なぜ商品数ではなくブランド数を採用したのかは、内容量や味付けだけが違う、同ブランドの別商品の一つとしてカウントすることで、商品数による企業間の不公平をなくすためである。

<研究>

企業のホームページにアクセスし、腸活に関する研究がどれだけ行われているのかを見た。開発研

究の主産物である商品があるとは、腸活について研究しようとしてできた商品があることを指す。開発研究の副産物である商品があるとは、他のことを研究しているなかで偶然できた商品があることを指す。

＜メディア宣伝＞

企業のホームページや動画サイトにアクセスし、腸活に関するCMを見た。評価対象は2020年内に放送されたものに限定した。

＜その他の活動＞

企業が取り組んでいる上記以外の腸活に関する活動をしているかをインターネットで調べた。この項目に当てはまる活動としては以下のものがあつた。

- ①腸活レシピの紹介
- ②腸活関係のキャンペーン
- ③腸活に関係する食育
- ④Webや動画サイトなどでのレシピ以外の腸活に関する情報サイトや情報動画の公開

結果と合計点

第二スクリーニングでは、全企業（85社）の合計点をランキングにし、企業数を考慮して**10点以上**を獲得した企業（37社）を選定した。

表④ 第二スクリーニングの結果

証券番号	企業名	合計点	証券番号	企業名	合計点	証券番号	企業名	合計点
4517	ビオフェルミン製薬	29	2551	マルサンアイ	18	2801	キッコーマン	13
2264	森永乳業	29	4574	大幸薬品	17	2502	アサヒグループホールディングス	13
2267	ヤクルト本社	26	2931	ユーグレナ	16	2908	フジッコ	13
2269	明治ホールディングス	23	2112	塩水港精糖	16	4568	第一三共	12
3401	帝人	22	2201	森永製菓	15	2925	ピクルスコーポレーション	12
4512	わかもと製薬	21	2002	日清製粉グループ本社	15	4921	ファンケル	12
4524	森下仁丹	21	1379	ホクト	15	2613	J-オイルミルズ	11
4578	大塚ホールディングス	20	4967	小林製薬	15	4523	エーザイ	10
4502	武田薬品工業	20	2593	伊藤園	14	2811	カゴメ	10
2897	日清食品ホールディングス	19	2810	ハウス食品グループ本社	14	2809	キユーピー	10
2216	カンロ	19	2587	サントリー食品インターナショナル	14	2001	日本製粉	10
2270	雪印メグミルク	18	2588	プレミアムウォーターホールディングス	14			
2206	江崎グリコ	18	2117	日新製糖	14			

第三スクリーニング ～企業の経営能力～

第三スクリーニングでは、第二スクリーニングで絞った37社を経営面に注目して企業を選定した。腸活に関する事業を実際に実行できる力がある企業に投資できるようにするために行った。指標は基本的に既存のものを用い、各企業の財務資料をもとに数値を出して配点を元に点数をつけていった。（表⑤）その結果19社が選ばれ、投資確定企業となった。（表⑥）

表⑤ 第三スクリーニングの指標

測る力	指標	配点
安定力	自己資本比率	65%以上... 6点 50%以上65%未満... 4点 30%以上50%未満... 3点 30%未満... 1点
	流動比率	200%以上... 6点 100%以上200%未満... 4点 100%未満... 1点
収益力	ROA	8%以上... 6点 5%以上8%未満... 5点 2%以上5%未満... 3点 0%以上2%未満... 1点 0%未満... 0点
	ROE	10%以上... 5点 2%以上10%未満... 2点 0%以上2%未満... 1点 0%未満... 0点
成長力	腸活分野における売上高研究開発比率	70以上... 6点 40以上70未満... 5点 18以上40未満... 4点 6以上18未満... 3点 1以上6未満... 2点 1未満、記載なし... 1点
	売上高増加率	10%以上... 5点 0%以上10%未満... 4点 -8%以上0%未満... 2点 -8%未満... 1点

指標の説明

<安定力>

企業がこの先も安定して活動することができるのかを測る。コロナ禍やリーマンショックのような不景気が起きたときに生き残ることができるような力は重要であるため採用した。この力を測ることで、「今後も」確実に目的を実現してくれる企業を判断できる。

自己資本比率

$$\text{純資産合計} \div \text{総資産} \times 100 [\%]$$

企業の安全性を評価するうえで最も基本となる指標。

企業の資本についての返済義務のない自己資本が占める割合を示す。値が大きいくほど倒産しにくい。

流動比率

$$\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 [\%]$$

短期的な支払能力を分析する際に用いる指標。

流動資産と流動負債の金額を比較し、企業の短期的な支払い能力を判断する。数値が高いほど、支払余力があると推測できる。

<収益力>

企業がどれだけ利益を出す力を持っているのかを測る。事業を実行するためには利益を出す力が重要であるため採用した。この力を測ることで、目的を実際に「実行」できる力を持つ企業を判断できる。

ROA

$$\text{当期純利益} \div \text{資産合計} \times 100 [\%]$$

総資産に対する利益がどの程度の水準かを示す指標。

総資産利益率のことで、投資された総資産(総資本)が、利益を得るためにどれだけ効率的に利用されているのかを表す。値が大きいほど、経営効率が良いと推測できる。

ROE

$$\text{当期純利益} \div \text{純資産合計} \times 100 [\%]$$

株主から集めた資本をどのくらい効率良く使うことができるかを示す指標。

企業が自己資本をいかに効率的に運用して利益を生み出したかを表す。値が大きいほど、経営効率が良いと推測できる。

<成長力>

企業の経営規模拡大の度合いや、可能性を測る。より規模が拡大できれば私達目的である腸活のさらなる普及に近づくと思われ採用した。この力を測ることで、目的を「成功」させる「発展」させる力のある企業を判断できる。

腸活分野における売上高研究開発比率

$$\text{研究開発費} \div \text{売上高} \times (\text{第二スクリーニングの研究の点} + 1)$$

研究開発費がどのくらい売上高に反映されているのかを示す研究開発比率に、第二スクリーニングで出した点をかけることにより腸活分野における開発比率とした独自の指標。

第二スクリーニングの点が0点のところがあったため各点に1点ずつ足したものをかけた。企業における経営規模の拡大や今後の可能性などを研究開発という面で測る。

売上高増加率

$$(\text{当期売上高} - \text{前期売上高}) \div \text{前期売上高} \times 100 [\%]$$

成長性を分析する際に用いる指標。

当期売上高が前期売上高に対して、どの程度売上高を増やしたのかを表す。売上高増加率がプラスであれば成長、マイナスであれば衰退、ゼロであれば横ばい状態であることを推測できる。

結果と合計点

第三スクリーニングでは、第二スクリーニングの点数が10点以上だった37社の**第三スクリーニング合計点+第二スクリーニング合計点/2 (※)**をランキングにし、企業数を考慮して**28.5点以上**を獲得した企業(19社)を投資確定企業として選定した。(表⑥)

(※)第三スクリーニングの合計点のランキングで企業を選定したところ、第二スクリーニングで獲得した点数が高かった企業が軒並み選ばれず、テーマとの適合性が欠けてしまったので、第二スクリーニングの合計点を半分にしたものを第三スクリーニング合計点に足すことで調整した。このことで腸活に力を入れつつ、経済力もある企業を選ぶことができた。

表⑥ 第三スクリーニングの結果

証券番号	企業名	合計点	証券番号	企業名	合計点
4517	ビオフェルミン製薬	41.5	4921	ファンケル	32.0
4578	大塚ホールディングス	39.0	2897	日清食品ホールディングス	31.5
2267	ヤクルト本社	38.0	2931	ユウグレナ	31.0
4967	小林製薬	36.5	2801	キッコーマン	29.5
4568	第一三共	36.0	2201	森永製菓	29.5
4574	大幸薬品	35.5	2269	明治ホールディングス	29.5
4524	森下仁丹	34.5	2810	ハウス食品グループ本社	29.0
4512	わかもと製薬	32.5	3401	帝人	29.0
2264	森永乳業	32.5	2908	フジッコ	28.5
4523	エーザイ	32.0			

第四スクリーニング ～企業の取り組み～

第四スクリーニングは、第三スクリーニングで決まった19の投資確定企業への構成比を決めるために行った。より投資で応援したいと思える企業を選ぶために、一般に公開されている企業ランキング等に該当企業がランクインしているかを調べ、第二スクリーニングと第三スクリーニングでは測ることのできなかつた企業が持つ良い面をプラスαとして評価した。使用したランキングは私たちが話し合っただけで本当に必要だと考えた4つのランキングを用い、配点は一律3点とした。（表⑦）この点数と第二、三の点数を元に構成比を決定した。

表⑦ 第四スクリーニングの指標

分野	区分	指標	配点（点）
雇用	女性雇用	なでしこ銘柄	3
	労働環境	健康経営優良法人	3
サステナビリティ	ESG/CSR	SUSTAINA高位	3
	SDGs	SDGs企業番付表	3

指標の説明と採用理由

<なでしこ銘柄>

経済産業省と東京証券取引所が女性活躍推進に優れた上場企業を選定したもの。「なでしこ銘柄」または「準なでしこ」に該当していた企業に加点した。

ジェンダー・ギャップ指数の順位がとても低い日本では、国内企業に女性活躍推進への取り組みが求められている。女子中学生である私たちとも関係がある女性活躍推進に取り組んでいる企業を評価し、社会におけるジェンダー格差問題の解決に向けて尽力している企業を応援したいと考えたため採用した。

<健康経営優良法人>

経済産業省が従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人を選定したものの。健康経営優良法人の大規模法人部門と中小規模法人部門に該当していた企業に加点した。

今回私たちが健康問題を解決するために取り組んでいる腸活というテーマに関連して、従業員の健康管理を行う企業を評価したかったため採用した。

<SUSTAINA>

サステナ株式会社が作成した独自のESG/CSR評価システムによる各企業の評価を指標として利用した、企業のサステナビリティ度合いを測るもの。評価の中でも「高位」の評価があった企業にのみ加

点した。高位であるほどサステナブルである、つまり持続可能性を考えた活動をしていると言える。

最近では企業の社会的、環境的な取り組みが注目されてきているため、その点を考えて取りこんでいる企業ほど私達が投資したときに社会をより良くすることに貢献することに繋がると考えられる。また、企業自体も周囲から高評価を得ることができより事業の拡大が加速すると考えられたため採用した。

<SDGs企業番付表>

日本経済新聞社が国内企業のSDGs経営について、SDGs戦略や環境価値など4つの視点で評価し、総合力を偏差値で格付けしたもの。偏差値上位にランクインしていた企業に加点した。

2030年までに世界全体で達成すべき「持続可能な開発目標」であるSDGsへのアプローチは、国内企業にも求められてきている。また、環境や社会課題への配慮を評価する「ESG（環境・社会・企業統治）」の考え方と共通点の多いSDGsを経営指針に取り入れる企業が増加した。企業側から自社の事業や社会貢献活動をSDGsの目標と関連付け、財務報告書などで開示を行い、投資家側ではESG投資の一環として企業のSDGs経営に注目した投資が盛んになっている。このことから、SDGsに力を入れている企業は様々な社会問題に対して危機感を持って取り組んでいると考えられ、社会をより良くしていこうという意志が見られる企業に投資で応援したいと考えたため、採用した。

ポートフォリオの分析

[ポートフォリオ（ファンド）名] 超☆腸活応援ファンド

証券番号	企業名	分野	市場	実際の投資額 (円)	構成比(%)
4578	大塚ホールディングス	医薬品	東証一部	592920	12
4568	第一三共	医薬品	東証一部	493522	10
2267	ヤクルト本社	食品	東証一部	443700	9
2897	日清食品ホールディングス	食品	東証一部	441500	9
4517	ビオフェルミン製薬	医薬品	東証一部	395112	8
4523	エーザイ	医薬品	東証一部	350235	7
4921	ファンケル	素材・化学	東証一部	344820	7
3401	帝人	素材・化学	東証一部	346940	7
4967	小林製薬	素材・化学	東証一部	298080	6
2264	森永乳業	食品	東証一部	198360	4
2269	明治ホールディングス	食品	東証一部	195000	4
4524	森下仁丹	医薬品	東証二部	198275	4
4574	大幸薬品	医薬品	東証一部	148544	3
2801	キッコーマン	食品	東証一部	146080	3
2201	森永製菓	食品	東証一部	150670	3
4512	わかもと製薬	医薬品	東証一部	49383	1
2810	ハウス食品グループ本社	食品	東証一部	48685	1
2908	フジッコ	食品	東証一部	50000	1
2931	ユーグレナ	食品	東証一部	49800	1

決まった企業19社それぞれの紹介

分野	証券番号 企業名	総合点 (平均との差) <第二/2+第三合計点+第四加点…第四加点項目>
医薬品	4578 大塚HD	48.0 (+9.4) <39.0+9…なでしこ・健康経営・サステナ>
医薬品	4568 第一三共	45.0 (+6.4) <36.0+9…健康経営・サステナ・SDGs>
食品	2267 ヤクルト本社	44.0 (+5.4) <38.0+6…健康経営・サステナ>

<p>企業の説明 HP： 腸活商品： 研究活動： その他の活動：</p>	<p>第二スクリーニングで加点した内容の紹介</p>
--	----------------------------

<p>精神、神経領域やがん領域に注力、また日々の健康をサポートする商品の販売 HP：ファイブミニのHPや、大塚製薬のHPで腸内環境について情報提供している 腸活商品：エクエルブランド、乳酸菌B240を配合したボディメンテなど 研究活動：食物繊維が豊富な大豆や、栄養などに重点を置いている その他の活動：お腹の調子を整えるもち麦を使ったレシピを公開</p>

<p>医薬品の販売を行う HP：第一三共胃腸薬の紹介ページ 腸活商品：乳酸菌配合の第一三共胃腸薬プラスやパンラクミンなど 研究活動：有孢子性乳酸菌を配合した胃腸薬を開発 その他の活動：e-ヘルシーレシピで運動やレシピなどの情報を提供している</p>
--

<p>社名の通り、ヤクルトの販売が特徴 HP：子供向けに腸内環境について学ぶコンテンツを作成 腸活商品：ヤクルト 研究活動：創始者が乳酸菌シロタ株を発見し、現在も多くの乳酸菌の研究を行う その他の活動：Youtubeや小学生向けのおなか元気教室での啓発活動</p>
--

食品

2897 日清食品HD

43.5 (+4.9)

<31.5+12...なでしこ・健康経営・サステナ・SDGs>

乳酸菌飲料やシリアルを展開する日清ヨークや日清シスコなどを傘下に有する

HP：日清ヨークのHPにて乳酸菌に関する特設ページを公開

腸活商品：ピルクル、十勝のむヨーグルト、りんご乳酸菌など

研究活動：L.カゼイ菌（NY1301株）の腸への効果の研究

その他の活動：ピルクルの特設サイトにてカゼイ菌のひみつを解説

医薬品

4517 ビオフェルミン製薬

41.5 (+2.9)

<41.5+0...>

乳酸菌製剤や胃腸薬などのおなか（腸）の健康に特化している

HP：腸活や乳酸菌についての情報提供が充実している

腸活商品：新ビオフェルミンS、ビオフェルミン便秘薬

研究活動：特に乳酸菌の研究が盛ん

その他の活動：腸活レシピの公開や腸活応援キャンペーン、腸活アンケートなど

食品

4523 エーザイ

41.0 (+2.4)

<32.0+9...健康経営・サステナ・SDGs>

がんと神経の2大戦略領域において、研究開発からコマーシャルまで行っている

HP：なし

腸活商品：モビコール®配合内用剤など便秘薬

研究活動：大学や、企業と共同で腸の病気やビフィズス菌の研究を行う

その他の活動：レシピを公開している

素材・化学

4921 ファンケル

41.0 (+2.4)

<32.0+9...健康経営・サステナ・SDGs>

化粧品、健康食品の販売

HP：元気生活web特別版のなかで腸活について詳しく説明

腸活商品：快調サポート

研究活動：腸内細菌の機能性研究

その他の活動：キリンHDと健康増進に向け、腸内環境をターゲットに共同研究

素材・化学

3401 帝人

41.0 (+2.4)

<29.0+12...なでしこ・健康経営・サステナ・SDGs>

ヘルスケアとマテリアル事業に取り組む

HP：ブランドサイトのピオリエを開設し、腸に関するコラムレシピを公開

腸活商品：パーリーマックス、イヌリアをもとにした商品

研究活動：腸内細菌叢モデルを用いた研究

その他の活動：4社共同で「大腸活コンソーシアム」を設立

素材・化学

4967 小林製薬

39.5 (+0.9)

<36.5+3...サステナ>

健康食品、化粧品、育毛、医薬品など多種多様な事業を展開

HP：イージーファイバーのHPで腸活と食物繊維の関係を説明

腸活商品：マルチ乳酸菌&納豆菌等、腸活ヘルプなど

研究活動：乳酸菌や納豆菌を含む有用な菌の配合についての研究

その他の活動：なし

食品

2264 森永乳業

38.5 (-0.1)

<32.5+6...健康経営・サステナ>

牛乳、ヨーグルト、アイスクリーム、チーズなど幅広い乳製品の製造・販売

HP：ビヒダスヨーグルトのブランドサイトにて腸内フローラについて紹介

腸活商品：腸活ミルク、ビヒダスヨーグルト

研究活動：ビフィズス菌研究によって発見されたBB536に関する研究

その他の活動：ビフィズス菌トレ、出張料理教室に腸活コースがあるなど

食品

2269 明治HD

38.5 (-0.1)

<32.5+6...健康経営・サステナ・SDGs>

食料品と医薬品事業をあわせもつ

HP：明治ヨーグルトライブラリーというヨーグルトに関する情報サイト

腸活商品：R1、ヨーグルト類、プレビオサポート(動物用)

研究活動：さまざまな乳酸菌の効果についての研究

その他の活動：「ゆきぼよの教えて！腸活先生！」というweb動画の公開

食品

4524 森下仁丹

37.5 (-1.1)

<34.5+3…健康経営>

サプリメントを中心とするヘルスケア商品を製造・販売
 HP：腸内フローラ専用のページを作り研究成果や基礎知識を掲載
 腸活商品：ビフィーナといった腸への効果を主とする機能性食品
 研究活動：ビフィズス菌などの腸内フローラの研究
 その他の活動：第9回世界健康首都会議でビフィーナEXを展示

医薬品

4574 大幸薬品

35.5 (-3.1)

<35.5+0…>

一般医薬品の製造、販売
 HP：おなかのガスや下痢についての説明のページ
 腸活商品：正露丸 ラッパ整腸薬BF
 研究活動：消化管と脳腸相関の研究
 その他の活動：「正露丸」の受験生応援キャンペーン

食品

2801 キッコーマン

35.5 (-3.1)

<29.5+6…健康経営・サステナ>

醤油、だしを中心とする調味料や加工食品の製造販売が特徴
 HP：乳酸菌研究の紹介や、食材の整腸作用について解説している
 腸活商品：発酵だし、豆乳など
 研究活動：しょうゆ醸造技術の研究を基礎とした乳酸菌や発酵の研究
 その他の活動：なし

食品

2201 森永製菓

35.5 (-3.1)

<29.5+6…健康経営・サステナ>

菓子、冷蔵、健康食品などの製造販売
 HP：甘酒のブランドサイト甘酒ラボにて好ましい腸内環境について解説
 腸活商品：甘酒、シールド乳酸菌を含む商品（同グループの森永乳業と共同）
 研究活動：甘酒の腸内環境への改善効果の研究
 その他の活動：甘酒のその他の効果（便通改善など）の研究と公開

医薬品

4512 わかもと製薬

32.5 (-6.1)
<32.5+0...>

医薬事業やヘルスケア事業を中心に行う
HP：麹菌、乳酸菌、酵母についての説明、腸の特徴についてのページ
腸活商品：整腸薬 胃腸薬
研究活動：オーラルケアに適した新規乳酸菌を発見
その他の活動：Twitter、Youtube、Instagramで積極的に情報発信を行う

食品

2810 ハウス食品
グループ本社

32.0 (-6.6)
<29.0+3...サステナ>

ハウス食品やハウスウェルネスを傘下に有する
HP：House E-magにて腸にまつわるQ&Aなどの記事を公開している
腸活商品：まもり高める乳酸菌L-137シリーズ
研究活動：乳酸菌の研究が盛んで、特に乳酸菌L-137について研究している
その他の活動：House E-magにて腸内環境チェックポイントを紹介

食品

2908 フジッコ

31.5 (-7.1)
<28.5+3...サステナ>

昆布や豆、惣菜を中心とし、ヨーグルトやサプリメントの生産販売も行う
HP：カスピ海ヨーグルトのブランドサイトにて乳酸菌の研究を紹介
腸活商品：カスピ海ヨーグルト、善玉菌のチカラ
研究活動：カスピ海乳酸菌「クレモリス菌FC株」の研究が盛ん
その他の活動：カスピ海ヨーグルトを使用した腸内環境改善レシピを紹介

食品

2931 ユーグレナ

31.0 (-7.6)
<31.0+0...>

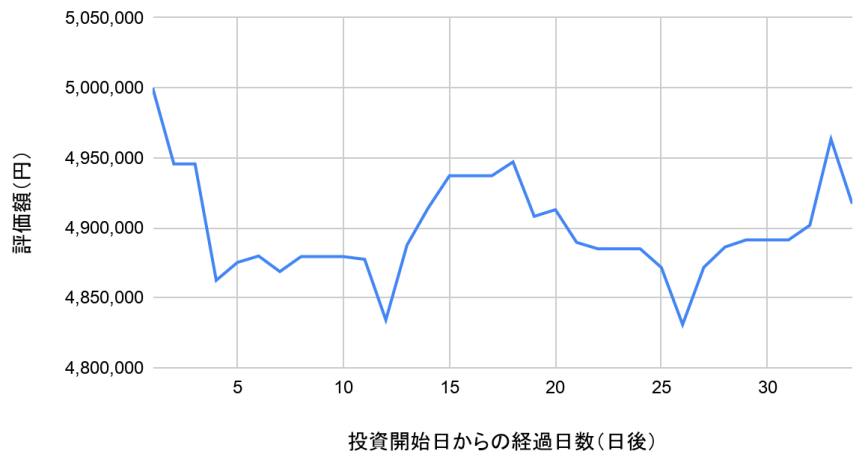
ミドリムシの研究開発及び製造・販売
HP：ユーグレナ・マイヘルスにて腸内フローラについて解説している
腸活商品：腸内フローラバランスチェック解析キット
研究活動：ユーグレナの腸内環境への作用の研究
その他の活動：サステナブル・タイムズにてサイキンソーとの対談の模様を紹介

値動きのチェック

私達は11月28日に株を購入し、12月31日までの約1ヶ月間運用した。最終的に全体の評価額は5,000,000円から4,917,226円に下落した。

各銘柄の運用結果は以下の表の通りである。(表⑧)

評価額の推移



表⑧ 運用結果

証券番号	企業名	取得金額 (円)	評価額 (円)	損益率 (%)	証券番号	企業名	取得金額 (円)	評価額 (円)	損益率 (%)
4578	大塚ホールディングス	592920	596430	0.59	2269	明治ホールディングス	195000	188760	-3.20
4568	第一三共	493522	448945	-9.03	4524	森下仁丹	198275	195700	-1.30
2267	ヤクルト本社	443700	452400	1.96	4574	大幸薬品	148544	141856	-4.50
2897	日清食品ホールディングス	441500	442000	0.11	2801	キッコーマン	146080	157740	7.98
4517	ビオフェルミン製薬	395112	409782	3.71	2201	森永製薬	150670	147440	-2.14
4523	エーザイ	350235	331740	-5.28	4512	わかもと製薬	49383	43011	-12.90
4921	ファンケル	344820	345660	0.24	2810	ハウス食品グループ本社	48685	50960	4.67
3401	帝人	346940	368600	6.24	2908	フジッコ	50000	50050	0.10
4967	小林製薬	298080	302640	1.53	2931	ユーグレナ	49800	46440	-6.75
2264	森永乳業	198360	193040	-2.68					

全体の評価額の考察

全体の評価額の推移は日経平均株価の推移とほぼ同じように動いた。11月末から12月末の日経平均の推移を見ると高値で小刻みに動いており、大きな上昇や下落が起こらなかった。そのため、私達の全体の評価額の推移も20万円前後の変動にとどまったと考えられる。運用結果を見ると上昇銘柄が10、下落銘柄が9であったが、上昇幅よりも下落幅のほうが大きかったため、全体的に見ると損益がわずかに上回った。

評価額が最低値(4,830,931円)をとった12月23



図1 日経平均株価の推移

日は前日の22日の日経新聞で「英国などで新型コロナウイルスの変異種の感染が拡大するなか、先行き不透明感から景気敏感株を中心に幅広い銘柄に売りが出た。」と報じられていたため、その結果が反映されたと見られる。

評価額が投資開始後に最大値（4,963,316円）をとった12月30日は前日の29日にバブル後の最高値を30年ぶりに更新したとあって、評価額も上昇したが、翌日は前日の高値を受けて反発し、その影響を受けて評価額も推移した。

今回は投資したい企業を選出し、ポートフォリオを組むので精一杯だったが、バーチャル株式を通して株式投資はタイミングが大切だという気付きがあった。最終的な19の企業は自分たちが自信を持って決めた投資銘柄と投資額だったので、利益が出るのではないかと期待していたが、思ったように評価額は伸びず株式投資で利益を得ようとすると、もっとたくさんの情報を加味する必要があると感じた。

株価が上昇した企業（太字は損益率5%以上）

〔医薬品〕大塚ホールディングス・ Bioフェルミン製薬

〔食品〕ヤクルト本社・日清食品ホールディングス・フジッコ・ハウス食品グループ本社・キッコーマン

〔素材・化学〕ファンケル・**帝人**・小林製薬

<考えられる要因>

帝人

帝人は12月28日に一時、前週末比31円（1.6%）高の1924円をつけるなど続伸した。その背景として以下を参照した。

「帝人は新型コロナウイルス流行の第3波で不足する医療用ガウンの安定供給に向け、中小の縫製企業と生産を支える枠組みづくりに乗り出した」（28日付の日本経済新聞朝刊）と伝わったのが買いを誘った。連携する約40社と生産情報を共有するなどし、大量生産に迅速に対応できるようにするという。中国製の流入が増加しているが、足元で感染が急速に拡大しているとあって、需要増加に備えた動きとして材料視した買いが入った。（12月28日の日本経済新聞より引用）

帝人は新型コロナウイルス感染拡大を受けて医療用ガウンの需要が想定を上回るなどし、11月に3月期の連結純利益が従来予想から上振れすると発表していた。今回の発表は帝人の生産技術を国内の中小企業と共有することでさらに医療用ガウンの国内生産を活性化させようというもので、系列の帝人フロンティアが新型コロナウイルスの感染急拡大に伴う医療現場の逼迫状況を受けて需要が増加した医療用ガウンを安定的に生産・供給を可能にするためのネットワークを発足させたことで投資家の期待感が高まった。



図2 帝人の株価の推移

株価が下落した企業（太字は損益率-5%以下）

〔医薬品〕**第一三共**・エーザイ・森下仁丹・大幸薬品・わかもと製薬

〔食品〕森永乳業・明治ホールディングス・森永製菓・ユウグレナ

<考えられる要因>

いくつかの製薬会社で株価が大幅に下落した。新型コロナウイルスの世界的な感染再拡大による経済活動の制限が原因で、国内景気の先行き不透明感が増している。

第一三共

第一三共の株価は11月初めから12月初めまで高値を更新し続けていた。11月中は開発中の新型抗がん剤に対する期待が高まっていることや、米ファイザーによる新型コロナウイルスワクチンの実用化が近づいて医薬品株全体が物色された影響も出て、機関投資家を中心に買いが集まっていた。さらに、11月27日には前日4日間の続伸の末、前日比175円（4.6%）高の3948円まで上昇し、上場来高値を更新していた。

私達が株を購入したのは11月28日で、上場来高値を更新したところで購入してしまった。結果、株価は27日を境に下落していき、損をしてしまった。



図3 第一三共の株価の推移

企業ヒアリング

最後に、私たちがスクリーニングの結果投資している企業が腸活に対してどのように取り組んでいるのか実際に企業の方に聞いてみたいと思い、問い合わせをしたところ森永乳業（食品）、帝人（素材・化学）、森下仁丹（医薬品）の3社の担当者の方々が協力してくださった。

森永乳業（食品）

Q1. いつ頃から腸活を意識しはじめましたか。

A1. 森永乳業では1921年から育児用ミルクの販売を始めました。赤ちゃんの健康を守るための研究に取り組む中で、母乳で育った赤ちゃんの腸内はビフィズス菌が多いことや、赤ちゃんの生育や健康にビフィズス菌が関係しているようなことを知りました。そして、ビフィズス菌は大人のおなかの健康にもいいだろうと考えて、牛乳やヨーグルトなどの商品にも使えるように1969年にビフィズス菌BB536を発見し、1978年にBB536を配合したビヒダスヨーグルトを発売しました。はっきりとした時期の記録はありませんが、このような研究の背景があります。

Q2. 腸活事業に目をつけ、力を入れている目的や理由はなんですか。

A2. 森永乳業では食品メーカーとして食から健康をサポートしたいという思いから、健康効果のある素材のひとつとしてビフィズス菌の研究・商品開発に力を入れています。世界的にも腸内細菌や腸内フローラが全身の様々な健康に関係しているとの研究報告があり、森永乳業としても腸内に注目しています。なお、ビフィズス菌BB536の健康効果を調べた結果、腸内環境改善作用、花粉症の改善作用、感染防御作用などの研究結果が確認されています。

Q3. 現在「腸活」という言葉がよく聞かれ、一般に浸透していると考えられます。浸透してきた理由をどのようにお考えですか。

A3. 2000年代に入り、遺伝子解析などの技術が大幅に向上し、今までより簡単に複雑な腸内細菌の世界が調べられるようになりました。その結果、世界中で腸内細菌（腸内フローラ）と健康に関する研究が盛んに行われるようになり、年々研究論文の数は増えています。これらの研究成果がメディア（テレビ、新聞、雑誌、WEB）で多く取り上げられたことと、商品広告などの力も合わさって、お客さまに腸活が浸透してきたのだと思います。

Q4. 腸活に対しての取り組みで特にこの事業は貴社ならではの一大事業はなんですか。

A4. ビフィズス菌を自社製品（ヨーグルト、サプリメント）に活かすだけではなく、原料として国内・海外でも販売していることです。

Q5. これから腸活市場はどのくらいの規模で拡大していくと思いますか。

A5. ヨーグルト市場やサプリメント市場は既に規模が大きいため、急成長という訳ではありませんが、新しい効果の発見や技術開発によって緩やかに拡大していくと思います。

Q6. 2020年6月から「ビフィズス菌トレ」プロジェクトを展開をしていますが、現在その成果どのように現れていますか。

A6. いまは「ビフィズス菌トレ」プロジェクトを通じてビフィズス菌に興味を持ってくれる人たちを増やし、活動の輪を広げるべく頑張っています。

Q7. SNS上で「100人のビフィズス菌トレ」という活動がありました。この活動で女子大生をターゲットにした理由はなんですか。また、成果はありましたか。

A7. 腸内環境やビフィズス菌に対する意識は若い年齢では低く、年齢が上がるほど高くなります。（自分自身や周りの人のからだの不調が出てくるので）ですが、腸内環境は年齢に関わらず大事なことであり、対象の大学生は未来の栄養士さんを目指しているので、自分の健康と将来仕事で役立てていただくために、若い年代の方々に向けた啓発活動として「100人のビフィズス菌トレ」を実施いたしました。まだ、企画は実施期間中（SNS投稿期間）ですが、ビフィズス菌のセミナーを聴講女子大生からは、とても勉強になった、ビフィズス菌ヨーグルトに興味が出た、といった感想をいただきました。

帝人（素材化学）機能性食品素材事業推進班/三好孝則様

Q1. いつ頃から腸活を意識しはじめ、一つの事業として確立しましたか。

A1. 2013年頃、アメリカで人間の遺伝子情報を解析する装置が余り、腸内細菌を分析して調べてみるとたくさんの研究成果を得ることができ、チャンスがあるのではないかと思いました。また、当時繊維やプラスチックの研究をしている社員が多く、食物繊維の理解がしやすかったことや、最近の研究で腸だけでなく、脳や骨など、体のいろんな健康に寄与していることが新しい事業として腸活を選ぶ理由になりました。

Q2. 腸活に対しての取り組みで特にこの事業は貴社ならではの、帝人ならではのという一大事業はなんですか。

A2. もともと繊維の会社からいまでは医療品なども扱っており、化学反応や医薬品に詳しいので、知識が豊富にあり研究しやすいのが特徴です。メカニズムから理解できて効果を確認することができます。

Q3. 腸活を広めるために独自にやっていることは何ですか。

A3. 広告にならないように、気をつけながら研究発表の形で学会や雑誌で積極的な情報公開をしています。

Q4. 現在「腸活」という言葉がよく聞かれ、一般に浸透していると考えられます。浸透してきた理由をどのようにお考えですか。

A4. まず第一に年々健康意識は高まってきていることがあり、研究データが少しずつ普及してきていることと、効果を実感しやすいことが、流行で終わらず、浸透してきている理由だと考えています。

Q5. つい最近、ビオリエというフードブランドのブランドサイトが開設されたことを知って、拝見したのですが、腸活についてすごく詳しく記載されていて驚きました。ブランドサイトを開設した理由があれば教えてください。

A5. 腸活関連の商品が増えていくなかで、一つ一つの宣伝を行うよりも、ブランド戦略を行うことで、腸活の良さを知ってもらいたいと考えています。

Q6. 腸活に関係する機能性食品として、ヨーグルトなどのいわゆる王道の商品ではなく、大麦を選んだ理由はなんですか。

A6. ヨーグルトの開発、発売は盛んですが、腸内細菌を元気にすることも大切だとわかり、新しく腸活事業に参入するチャンスだと考えました。ヨーロッパのほうでは腸内細菌の専門の研究機関もあり、大麦のことは海外で調べました。

Q7. ここからは腸活に関連した過去の事業についてお聞きしたいのですが、岩国市との腸内会プロジェクトというのがあったと思うのですが、その一番の目的と、得られた成果はありましたか。

A7. 工場が岩国にあり、研究所と連携しやすく、岩国市とも意思も一致したので始めました。その結果、便秘が改善するなどの効果を確認することができました。

Q8. 同様に大腸活コンソーシアムの成果はありましたか。

A8. 食品メーカーに原料として売っており、菌を扱っている会社と、食物繊維を扱っている会社であるため、タッグを組めばよいのではと思います、腸活の啓発活動の一環として取り組んでいます。

森下仁丹（医薬品）広報担当/竹中はる花様

Q1. いつ頃から腸活を意識しはじめましたか。

A1. 1993年に便秘薬ビフィーナを販売しはじめ、2015年辺りから腸活という言葉を使い始めました。

Q2. 腸活に目をつけ、力を入れる目的や理由は何ですか。

A2. もともとは腸活目的ではありません。最初は万病に効果がある薬として昔から販売している銀粒仁丹で長年蓄積してきた包む技術を、液体を包む技術にまで応用させ、さらに様々なものを包めるカプセルを開発しました。しかし、海外の商品に押されて売上が下がったときに、自分たちの包む技術を生かし、食べれるものに応用した商品を販売したいと思い、膜で包むだけでなく、膜にも役割のある商品開発を目指し、酸に強い耐酸性の膜を開発しました。その膜を活かし、ビフィズス菌をきたまま腸に届けることができる商品を開発し、現在腸活に力を入れています

Q3. 森下仁丹ならではの腸活に対しての取り組み方はありますか。

A3. 大学の研究機関、ベンチャー企業と共同で、腸内環境の研究をしています。

Q4. 現在「腸活」という言葉がよく聞かれ、一般に浸透していると考えられます。浸透してきた理由をどのようにお考えですか。

A4. 人々の健康に対する意識が高まり、論文など根拠のある情報が増えたことで、腸内フローラという言葉が浸透したことだと考えています。また、流行したことによる相乗効果もあると思います。

Q5. 腸活を広めるために独自にやっていることはありますか。

A5. ただ商品を販売するだけでなく、腸に良い食事などの周辺情報をホームページ上で提供することを大切にしています。根拠があり、ためになる情報を知った上で、商品を買ってほしいと考えています。

Q6. これから腸活市場はどのくらいの規模で拡大していくと思いますか。

A6. 腸活はほかのブームと異なり、世界的に研究が行われ、様々な効果が実際にわかっています。また、健康ケアをする上で欠かせないものであり、未知なる可能性を秘めているため、健康寿命が大切だとされている今では、さらにニーズが高まり、これからも新しい情報が増え、腸活市場も拡大していくと考えています。

Q7. 森下仁丹の腸内フローラの研究が最前線だと考える理由はなんですか。

A7. 腸活が流行し始めた数年ではなく、27年ほど研究を積み重ね、長い期間意識して市場を切り開いてきたことや、他の企業ではなかなかない、他業者からの受託事業も展開していることなどからです。

投資家へのアピール

1. 注目される腸活

レポートを作成していくなかで、世間で腸活が注目されていることを実感した。また、私達が腸活に期待するワケ(p. 8~9)で述べたように、健康意識が高まっており、健康寿命への注目度も高まっているなかで、腸活産業は今後も成長が見込めるため、投資するメリットは十分にある。

2. 腸活研究の普及

現在、腸について、世界的に研究が進められている。研究をするということは、将来へ投資をするということであり、企業の成長に重要な役割を果たす。今回私たちは、企業を選定していくなかで、成長性を判断するために、研究活動についても指標に採用した。企業ヒアリングでは、各企業の特徴をいかして研究を行っていることがわかった。例えば、森永乳業は昔から販売していた育児用ミルクのために研究に取り組む中で、母乳で育った赤ちゃんの腸内はビフィズス菌が多いことや、赤ちゃんの生育や健康にビフィズス菌が関係しているようなことを知ったことから研究をはじめている。さらに、他企業や大学と共同研究が行なわれていることもわかった。また、テーマ研究からわかるように、腸はさまざまなものとの関係があり、未知なる可能性を秘めている。このように、腸活は研究が盛んに行われることで、日本の健康に関する未来に大きく貢献する分野であり、今後の発展の可能性に投資で応援する価値がある。

3. 流行りでは終わらない

今、腸活は流行していると言えるが、私達はこの流行は一時的なものではなく、今後長年に渡って意識され続けると考えている。

まず、腸活が流行している背景には1であげた健康意識の高まりがある。腸内細菌に関する様々な研究が行われ、豊富な研究データが普及した結果、腸活には腸内の環境を整える、花粉症を緩和させる、免疫力向上などの様々な効果があるとはっきりとした根拠を持って言えることがわかった。そのため、腸の重要性から考えても、腸活は健康を維持する上で欠かせないものであり、健康寿命への注目が高まって行く中で、さらに研究が進み、発展していくと考えられる。

また、腸活は世界的に研究が行われている点や、効果が実感しやすいという点で他の流行とは異なっている。以上の理由から、腸活が私達の生活に定着していくに伴い、腸活市場も拡大していくと考えられるため、腸活投資は長期投資に最適である。

4. 多種多様な企業が参入

私たちが調べるなかで、日本の上場企業だけで85社（第一スクリーニング参照）が腸活事業に参入しており、多くの企業が腸活事業に興味を持っているということがわかった。このことから腸活投資は選択肢が豊富で分散投資が可能である。

また、腸活事業に参入している企業同士の繋がり合い（大腸活コンソーシアムや大学との共同研究など）が盛んであることも一つの特徴である。横の繋がり合いが盛んであることのメリットは企業同士が高め合いながら腸活を社会に広めるための働きかけを行うことができること、さらに市場経済的な観点から見ると、多種多様な企業が互いに競争し合いながら成長していくことである。このことから腸活市場のさらなる発展が見込める。

さらに、まだ腸活関連の自社商品がないために第二スクリーニングで落とされた企業が多かったが、それらの企業は他企業とのコンソーシアムや大学や研究機関との共同研究に参加しており、これから腸活市場に本格的に参入しそうだと考えられる。また、サイキンソーやAuBという会社に見られるように、非上場・未上場の中小企業やベンチャー企業でも腸の健康に特化した事業を展開する企業が増えてきている。このことから腸活市場はますます成長・拡大を遂げていくだろう。

日経STOCKリーグを通して学んだこと

【田中】

はじめはポートフォリオやスクリーニングの意味もわからなかったが、学習をすすめるうちに株式投資や企業活動についてたくさんの知識を得ることができ、株式投資を始めとする経済活動に興味を持つようになった。また、様々な企業のホームページを見て、今の社会を作っている企業に触れたことで将来の選択肢を増やすことができたと思う。今回、森永乳業株式会社、帝人株式会社、森下仁丹株式会社の3社にヒアリングをさせていただいた。コロナ禍で企業訪問ができなかったことが残念だったが、企業の腸活に対する熱心な取り組みや、将来への期待感など、貴重なお話を伺うことができ、実際にヒアリングをしたことで腸活をテーマに選んで良かったと感じた。

【工藤】

私は、STOCKリーグへの参加を決めた当初、投資について、財産を貯蓄、増加させる手段になるということしか知らなかった。しかし、活動を通して、投資は社会貢献になりうるということを知り、将来、この活動を思い出しながら投資することが楽しみになった。また半年かけてのレポート作成だったので、計画性やチームワークの大切さを実感することができた。わからないことも多く、何度か行き詰まることもあったが、その度にメンバーと話し合っ解決することができた。今回、このメンバーで活動に参加し、とても楽しい経験ができた。

【鈴木】

腸活をテーマに調べていくなかで、腸内細菌の可能性、企業の取り組みを知ることができた。特に、腸の健康が免疫力や脳とも関係していることに驚いた。また、最初はほとんどなにもわからなかった、株、財務指標について学ぶこともできた。大変であったが、このレポートを完成させることが、有意義な経験になったと思う。

【仲】

日経ストックリーグでの投資を通して、テーマ決めを始めに社会にどうなって欲しいかを考えることが多く、社会を見つめ直すことができたと感じた。様々な企業を調べている時にはそれぞれのが掲げている思いに触れることができ自分の視野を広げることができたと思う。株や経済の知識や興味も格段に広げることができ、貴重な経験になった。また、メンバーとの話し合いの機会も多く、共に解決できたときやレポートが完成したときは強い達成感を得られた。この経験を大切に、今後の学習や活動に役立てていきたい。

【全体】

日経STOCKリーグを通して、全く知らなかった株式投資と経済について社会と向き合いながら学べた。はじめは全く無かった知識も、わからない経済用語は積極的に調べるようにしたことで大きく増やすことができ、今まで読む機会がほとんどなかった経済ニュースも理解できることが増えた。

「腸活」をテーマに選んだことで、私達自身の健康という面でこれからの未来を考えるきっかけになり、テーマ研究を通して腸活の可能性に気が付くことができた。企業ヒアリングという貴重な経験を通して、腸活について自分たちが考えていたこととはまた違った視点を得られ、視野を広げることができた。また、私達自身の将来を考える参考にもなった。バーチャル投資では、世の中の経済動向によって日々変動する株価を観察する面白さに気づき、社会の出来事や変化が経済と結びついていることを実感できた。

レポート作成は、思うように進まなかったり、一度決めたことでもあとから問題点が出てきたりなど、一筋縄ではいかなかった。それでも会議を何回も実施し、点数の付け方や評価の仕方などで意見が食い違うことがあっても、その都度話し合っ解決することができた。意見をぶつけ合ったからこそ、納得の行く結論が出たときは達成感を感じた。また、新型コロナウイルスの影響でなかなかチームで集まって話し合うということができなかったが、何時間もオンラインミーティングの機能を使って作業をし、現在多くの企業で行われているであろう"リモートワーク"を体験する良い機会にもなったと思う。

最後に今回のような貴重な経験ができたことを大変嬉しく思います。日経STOCKリーグに関わったすべての方々に感謝申し上げます。

参考文献

一書籍一

- ・小林弘行（2017）『二週間で痩せる法則』ワニブックス
- ・藤田紘一郎（2013）『人の命は腸が9割』ワニブックス
- ・藤田紘一郎（2013）『乳酸菌生活は医者いらず』三五館
- ・瓜田純久（2015）『便秘を治す腸活テクニック』マキノ出版
- ・ヘルシスト編集部（2017）『乳酸菌、宇宙へ行く』文藝春秋
- ・上野川修一（2013）『からだの中の外界 腸のふしぎ 最大の免疫器官にして第二のゲノム格納庫』講談社
- ・上野川修一（2013）『腸内革命』海竜社
- ・高橋健太郎（2020）『腸を活性化させる食べ方と生活』辰巳出版
- ・藤田紘一郎（2019）『認知症は脳より賢い腸を鍛えてくいとめる！』PHP研究所

一論文一

- ・脇野 修、吉藤 歩、伊藤 裕（2017）『腸内細菌叢と生活習慣病』
https://www.jsn.or.jp/journal/document/59_4/562-567.pdf
- ・須藤信行(九州大学)（2005）『ストレスと腸内フローラ』
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jim/19/1/19_1_25/pdf
- ・国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、国立大学法人東北大学、学校法人久留米大学、株式会社テクノスルガ・ラボ（2019）『軽度認知障害は腸内細菌と関連』
<https://www.ncgg.go.jp/hospital/monowasure/news/documents/20191218shiryo.pdf>

一インターネット一

- ・明治安田生命「健康」に関するアンケート調査を実施！（12月23日閲覧）
https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2020/pdf/20200902_01.pdf
- ・厚生労働省 自分で守り・つくるヒントがある！考えてみよう 私自身の健康生活(12月23日閲覧)
https://www.mhlw.go.jp/houdou/kouhou/kouhou_shuppan/magazine/2018/03_01.html#:~:
- ・厚生労働省 健康寿命|e-ヘルスネット(12月23日閲覧)
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/alcohol/ya-031.html>
- ・女性活躍に優れた上場企業を選定「なでしこ銘柄」（12月14日閲覧）
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/diversity/nadeshiko.html>
- ・健康経営優良法人認定制度(12月14日閲覧)
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kenkoukeiei_yuryouhouzin.html
- ・SUSTAINA [サステナ]: サステナビリティ (ESG/SDGs/CSR) に特化した情報プラットフォーム(12月14日閲覧)
<https://www.sustaina.org/ja/>
- ・2020年 SDGs企業番付表 総合力上位に入ったのは(12月14日閲覧)
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ066254910V11C20A1000000/>
- ・＜東証＞帝人が続伸 「医療ガウン供給で中小と連携」、個人が買い(1月5日閲覧)
https://www.nikkei.com/article/DGXZASFL28HHT_Y0A221C2000000?unlock=1
- ・帝人の今期純利益、1%減に上振れ ガウンなど供給増(1月5日閲覧)
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ06575351002112020DTA000>
- ・＜東証＞第一三共が上場来高値を更新 モルガンMUFGが目標株価上げ 新薬に期待(1月5日閲覧)
https://www.nikkei.com/article/DGXLASFL27HJB_X21C20A1000000?unlock=1
- ・第一三共、上場来高値 新型抗がん剤への期待高まる(1月5日閲覧)
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ066084770R11C20A1EN1000>
- ・日経平均3日続落 終値278円安、ウイルス変異警戒(1月5日閲覧)
https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0GD00003_S0A221C2000000